

# トレーナー認定審査シート

## 実技評価項目

NO	<準備・知識・知見評価>	低レベル:1	中レベル:2	高レベル:3	
実1	高所作業	7.3.3脚立作業の基本を理解し説明できる	理解できていない	理解している	安全対策を提示でき、社内で、より安全な高所作業実施方法を提示し推進させている
実2	LOTO	15.4.4LOTOのデバイス使用条件と 15.6.1危険エネルギーの制御の原則と手順を理解している	理解できていない	理解している	社内作業または現地作業でLOTOを必ず実施させている
実3	保護具	16.6.5の騒音レベルと難聴周波数の理解ができている 16.3.6のフルハーネス型墜落制止用具の特性を理解している	理解できていない	理解している	最新の保護具を着用させており、具体的にそれがどのようなものが提示できる。

### 高所作業

### LOTO

### 保護具

#### マスタートレーナー評価コメント

受講者が下記注意事項と禁止事項を提示できるかチェックすること

- 使用前点検の実施
- 乗り移り禁止
- 天板および次の踏ざんには立たない
- 体の正面で作業する
- 体を乗り出さない
- 1人しか乗ってはいけない
- 水平な場所に設置する
- 補助人に支えてもらう
- またいで作業を行わない

#### マスタートレーナー評価コメント

下記注意事項 禁止事項を提示できるかチェックすること

- 色、形およびサイズが統一されていること
- ロックアウト/タグアウト専用のものであること
- 錠と鍵は一つひとつ異なるものであること
- 使用する環境での耐久性があること
- 錠はロックアウト専用のもを使用すること
- 作業員一人ひとりが、エネルギー遮断デバイス一つひとつに、自分の錠をかけること
- 自分の錠一つひとつに自分のタグをつけること
- 自分の錠は、常に自分で持つこと
- 自分の錠を他人に渡さないこと
- 他人がかけた錠をはずしたり、破壊したりしない

#### マスタートレーナー評価コメント

下記注意事項 禁止事項を提示できるかチェックすること

- 難聴が始まる聴力低下周波数は何Hzか？4,000Hzが言えるか？
- 騒音対策しなければならぬ騒音量は何デシベル以上か？85デシベルが言えるか？
- フルハーネス型 第一種 第二種の違いは？
- 空気呼吸器やガスマスクの使い方を着用しながら説明できるか？



Semiconductor Equipment Association of Japan

SEAJ推奨安全教育

# トレーナー認定審査シート

## ティーチャック評価項目

NO	<準備・知識・知見評価>	低レベル:1	中レベル:2	高レベル:3	
1	対面教育時のアイコンタクト	効果的にアイコンタクトがとれる	アイコンタクトできない。 自分の訴えに対してうなづく受講者がいない。	アイコンタクトを図ろうとするが 受講者によってうなづく人もいれば、 うなづかない人もいる。	アイコンタクトをとったらどの受講者もうなづいてくれる。
2	質問方法	ジグザグ法等で質問を行なえる	質問をしない	質問は少しするが、ジグザグなどはとれない。	質問をジグザグ法などでとんとん行う。
3	ボディランゲージ	講習で伝えたい内容を自分の体で大きく表現できる。 貧乏ゆすりなど受講生に不快感を与える動作をしない。 講習時の立ち位置が適切である。 講習時、身体が左右や前後に揺れながら 講義を行うことはなく、自然に振り舞える。	マイナス表現を複数とる。 体をのけぞらす。 ポケットに手を入れる。 手を前で組む。 腕組み 足組する。 ポインタをぐるぐる回す。	講習内容に応じて、少しボディランゲージがとれる。  立ち位置は適切であるがたまに揺れたりする。	ビジュアルハンド(下降、昇圧、ストライクゾーン、ホームラン等)の表現を豊かに盛り込んで講習できる。  適切な立ち位置で、受講者や講義内容に合わせて適切に会場を移動できる。不自然な揺れはない。
4	声の大きさ	広い会場でも、マイクに頼らず、はっきりと十分な大きな声で、発声できる。 もごもごした表現で何を言っているのか不明ということはない。	声が小さく、聞き取りづらい	声量はあるが、堂々とした発言できないことがまれにある。	はっきり十分な声量で、言っている内容がよく聞き取れる。
5	話の間	説明と説明の間や質疑応答の際、間がうまくとれる。	言葉を羅列して一方的な説明をする。	間を適切に意識して説明できる。	講習中受講者の表情や質問に対する回答状況から、無意識に間をつくることができる。
6	非単語	フラー(エー あの その)は言わない。	フラーを連発させる。	1回/分以内程度でフラーが出る。	フラーは出ない。
7	担当章の理解	自分の講習担当章のポイントを理解している。	担当章を話すのが精一杯である。	担当章のポイントをある程度把握している。	担当章のポイントを全て把握している。
8	自社の装置・作業の危険の知見や情報	自社製品や作業時危険箇所とその対策が提示できる。	自社製品や作業時の危険箇所を提示できず、危険回避方法も提示できない。	1件程度、自社製品や作業時の危険箇所、危険回避方法を提示できる。	自社装置に関わる主たる危険源や作業上の危険性の知見を複数提示できる。講義中、危険源の場所の写真を提示し、危険回避方法を教えることができる。
9	自社もしくは業界の事故事例の概要や情報	自社もしくは業界の事故事例を説明し危険回避方法を提示できる。	自社もしくは業界の事故事例や危険回避方を提示できない。	1件程度自社もしくは業界の事故事例や危険回避方を提示できる。	自社で発生した事故事例の概要を把握し、受講者に説明できる。またその対策方法も合わせて説明できる。自社で事故事例がない場合は、一般的に公開されている事故事例や動画を提示して、自己原因と対策を提示できる。



Semiconductor Equipment Association of Japan

SEAJ推奨安全教育